

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度 第2回相模原市地域福祉推進協議会		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222 (直通)		
開催日時		令和3年3月16日(火)～同年3月23日(火)		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)		
	その他	/		
	事務局	/		
公開の可否		可	不可	一部不可
傍聴者数		/		
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため		
会議次第		<p>1 第3期相模原市地域福祉計画の進捗状況について</p> <p>(1) 成果指標について</p> <p>(2) 補助指標について</p> <p>2 今後のスケジュールについて</p>		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の意見、 は事務局の説明)

( 審議を書面等で行った理由 )

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により協議会委員からの意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

事務局より説明資料及び意見を求める回答票の送付を行った。

書面により審議を行い、本議案内容について、次のとおり意見があった。

### 1 第3期相模原市地域福祉計画の進捗状況について

第3期地域福祉計画は、平成27年度から令和元年度までの5年間を計画期間としており、計画期間終了に伴い、結果報告を行うとともに、各委員の御意見を伺った。

#### ( 1 ) 成果指標について

基本目標1「住民同士の支えあいの関係づくりを促進し、ネットワークの力で地域を支えます。」における成果指標「地域で活動している機関・団体とのつながりが少ないと思う民生委員・児童委員の割合」は、目標30.1%に対し、実績25.4% (目標達成) となった。

基本目標2「誰もが自分らしく地域でいきいきと暮らせるよう、福祉サービスや支援体制を充実します。」における成果指標「地域で受けられる福祉サービスに満足している市民の割合」は、目標10.8%に対し、実績6.7% (目標未達) となった。

基本目標3「福祉への理解と関心を深め、地域福祉の担い手を発掘するとともに、多様なニーズに対応できる福祉人材を育成します。」における成果指標「福祉分野のボランティア活動に参加している市民の割合」は、目標10.8%に対し、実績11.4% (目標達成) となった。

基本目標1と3については、それぞれが目標に向かって進んでいると思うが、スピード感が無く活動が渋滞している感じがする。基本目標2については、福

祉サービスや支援体制の充実は個人の価値観や、団体・組織の目標が複雑に変わって多種多様となり、求められるサービスや支援を充実させていくことは難しい。

サロンに関しては、場所が確保出来るのであれば、小規模なサロンなら行ってもよいと考えている方もいる。

基本目標 1 の成果指標は目標達成しているが、民生委員の立場として更に地域の連携・協力を進めたい。

- 成果指標については、基幹となるコミュニティソーシャルワーカー、民生委員の支援が必要と考える。

地域においてどのような福祉サービス受けられるかの周知がされていないのではないかと。

新型コロナウイルス感染症の影響で、経済格差は更に広がると考える。生活困窮者を支える具体的な活動を展開していきたい。

基本目標 1 と 3 の成果指標が達成されたことは喜ばしいことである。基本目標 2 の成果指標の未達については、範囲が広いことと個人による感じ方が大きく影響すると思われる。満足されている方からの意見から今後達成できるヒントを見つけていければと思う。

基本目標 1 の成果指標については、地域内の連携や協力を進めていく人との専門的知識をレベルアップさせることによって、内容が充実し、それによって指数が改善されると思う。

基本目標 3 の成果指標が目標達成されていることは、福祉への関心が進んでおり、福祉のまちづくりに向け良い傾向だと思うが、地域福祉の担い手が十分に満たされているわけではない。今後は無償だけではなく、有償ボランティアの促進に取り組み、多様なボランティア活動のメニューを増やし、参加促進に取り組んでいくことが必要である。

未達成であることは残念である。市の健康福祉局が組織改編されたことを受

け、高齢・障害を一体化したことにより、更なる支援体制の充実を期待する。

地域で受けられる福祉サービスに満足している市民の割合が下がっていることが気にかかる。コロナ禍でサービス提供側も対応や対処で混乱している。令和3年度はその混乱を収めながら新しいサービスを作り提供していくことも考える必要がある。

基本目標1の成果指標については、民生委員児童委員が各地域で献身的に活動している様子が分かる。また、地域の各相談機関もそれぞれの守備範囲において、福祉的課題の解決に向けて協力して取り組んだ成果が表れている。基本目標2については、目標未達だが、高齢者福祉、生活困窮者への対応、児童虐待や子どもの貧困等、申告な個々の事象に対しての市としてのセーフティーネットが困窮者を一人も取りこぼすことなく機能していると市民に理解してもらうまでは至っていないことの表れだと思う。

基本目標1の住民同士の支え合いの関係づくりの中の「地域で活動している機関・団体とのつながりが少ないと思う民生委員・児童委員の割合」の実績値は数字が少なくなれば目標達成になることは理解できるが、他の実績値は増加を目標にしている事から、文言を見直してはどうか。

## (2) 補助指標について

基本目標1「住民同士の支え合いの関係づくりを促進し、ネットワークの力で地域を支えます。」における補助指標「地域の実情に応じた災害時要援護者の避難支援体制を構築している自治会の割合」は、目標100.0%に対し、実績50.3%(目標未達)、補助指標「さがみはら地域福祉ネットワークの登録団体数」は、目標200団体に対し、実績26団体(目標未達)、補助指標「市内で定期的に行われているサロンの数」は、目標400箇所に対し、実績316箇所(目標未達)となった。

基本目標2「誰もが自分らしく地域でいきいきと暮らせるよう、福祉サービスや支援体制を充実します。」における補助指標「小圏域の相談支援機能が整っている地区の数」は、目標22地区に対し、実績12地区(目標未達)、補助指標「就労支援により就職に結びついた生活困窮者の割合」は、目標50%に対し、実績57%(目標達成)、補助指標「ふれあいサービスの協力会員数」

は、目標300人に対し、実績242人（目標未達）となった。

基本目標3「福祉への理解と関心を深め、地域福祉の担い手を発掘するとともに、多様なニーズに対応できる福祉人材を育成します。」における補助指標「ボランティア登録者数」は、目標1,000人に対し、実績687人（目標未達）補助指標「コミュニティソーシャルワーカーの配置地区数」は、目標22地区に対し、実績22地区（目標達成）補助指標「担い手の確保・育成を最も大きな問題として捉えている地区社会福祉協議会の数」は、目標11地区に対し、実績19地区（目標未達）となった。

- 補助指標はそれぞれの基本目標に沿って設定されているので、現状の判断をする上で必要なアイテムだが、もっと深掘りする必要がある。
- ボランティア不足については、最近はボランティアを行うメリットを求める方が多い。
- 基本目標1における補助指標について、市と協定を締結している自治会の数が少ない要因として、個人情報の取扱いなどの制約があることが要因ではないか。基本目標1における補助指標について、目標団体数高過ぎると思われる。見直す必要がある。
- 小圏域での相談支援機能の充実を期待する。
- 市民は、どのように充実した福祉サービスの提供を受ければいいのか知らない。
- 未達も多いが、着実に数値が改善しているので、継続していければと思う。
- 基本目標3の補助指標 ボランティア登録者数について、ボランティアの担い手として高齢者を対象とするだけでなく、若年層（高校生や大学生など）の方へも目を向けていくとよい。
- 基本目標1の補助指標 は目標達成していないが、300箇所以上のサロンが地域住民主体で開催されており、福祉のまちづくりに向け、評価できる。今後は交流の場だけでなく、悩み事を相談できる場として機能していくためには、担い手のリーダー層の育成が不可欠である。こうしたリーダー層とコミュニテ

ィソーシャルワーカー等福祉関係者が連携することで地域共生社会へもつながる。

- 基本目標 2 の補助指標 について、目標達成できたことは素晴らしい成果だと思う。その一方で、定着せずに困難を抱えている方も多いと思う。継続して定着の支援もきめ細かに出来るとよい。

基本目標 1 の補助指標 について、令和元年度の実績値 50.3% は実際地域での取り組みに接する感じは高いと感じた。

基本目標 1 の補助指標 について、さがみはら地域福祉ネットワークの登録団体の実績はかなり少ないが、ネットワークの登録方法の周知について工夫が必要と感じる。

基本目標 1 の補助指標 について、サロンの運営は地域住民が主体であるが、地区内のサロンを把握するのは地区社協だと思う。私が地区社協に関わっていた時は、地区内の地図にサロンを落とし込み、空白地域に新たにサロンを作る方法や場所探しをした。空白地域を認識する、どのように作るかなど地区社協の課題とすることが必要。サロンを増やすための働きかけが大切である。

基本目標 3 の補助指標 について、担い手確保は難しいが、発信し続けることが大切である。地区社協の活動は会員で活動しているが、ここに問題があると思う。地域で福祉に関わっている人達は自分が所属する団体の活動もあり、行事をこなすだけで終わっている。誰でも自由に活動に参加できるようにするにはどうしたらいいか、この指とまれ方式で枠を広げる必要がある。

- 今後も感染症対策は続いていくので、ボランティアやふれあいサービス協会会員数の減少が進んでいくのではないか。
- 補助指標の設定方法が正しいのか分からない。
- 今後も感染症対策は続いていくので、ボランティアやふれあいサービス協会会員数の減少が進んでいくのではないか。
- 小圏域での相談支援体制の未整備、ボランティアを含めた地域で福祉を支える福祉人材や福祉の担い手の伸び悩みが、結局は市としてのセーフティーネットに隙間ができる一因だと思う。市民の見守りサービスが各地域で当たり前となるような地域福祉の充実が急がれる。このような現状下で、首都直下型地震

のような大規模災害が起こったときに、現状では一人暮らしの高齢者や障害者・生活困窮者が多く取り残されるのではないかと心配される。

- 基本目標 1 の補助指標 について、さがみはら地域福祉ネットワークの登録団体数は目標よりも少なく、参加しやすい環境づくりが課題と分析しているが、従前はどのような情報発信をしていたのか。

## 2 今後のスケジュールについて

第 4 期地域福祉計画の進行管理や第 5 期地域福祉計画の策定、委員の任期等についてスケジュールを示した。

## 3 その他

- S D G s（持続可能な開発目標）の取組が次期地域福祉計画に盛り込まれることを望む。市民への啓発、各機関や団体・企業との連携が促進する必要性からも検討されることを望む。
- 形式的な書面会議ではなく、対面会議で意見交換を行いたい。
- 福祉は奥が深く、一般の方は困っていてもどこに相談に行けばよいのかわからない。もっと情報を発信すべき。
- 相模原市社会福祉協議会では、小・中学校や高等学校が取り組む福祉教育活動等の促進を目的に、みんないいひと体験講座を実施している。現在は、福祉体験することをメインに取り組んでいるが、今後は、福祉体験からボランティア活動への実践につながるような取組を検討していきたいと考えている。こうした取組からボランティア数も増え、地域福祉の担い手の発掘にもつながることになると考える。
- S D G s（持続可能な開発目標）の取組が次期地域福祉計画に盛り込まれることを望む。市民への啓発、各機関や団体・企業との連携が促進する必要性からも検討されることを望む。

- 無料学習支援や子ども食堂について、現在子どもの学習支援を令和2年度まで月2回開催していたが、令和3年度は月4回に開催を増やす予定である。開催場所は公民館にしているが、毎回開催場所が変わってしまう。安定した場所確保ができないものかと思う。公民館利用について、有料でも構わないので安定して利用できるようにしてほしい。

民間事業者等による見守り活動について、ガス・電気・水道の使用量の変化から見えてくるものがある。この取組を是非進めてほしい。

要保護児童対策地域協議会の運営について、会議内容の実践として、民生委員との連携を図ってほしい。

- 本協議会に参加したことで、本市の地域福祉の現状がまだまだ「みんなで支えあい地域の力が育む人にやさしいまち」という目標には到達できていないことを改めて感じた。行政で行えることには自ずと限界がある。例えば、自治会活動への若者参加を促すなど、それぞれの地域が支え合いの気持を大切にするような足下からの地域作りの再構築がなされないと「一人も取りこぼさない福祉」の実現は難しいと感じた。

以 上



相模原市地域福祉推進協議会委員 出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	飯沼 守	相模原市地区社会福祉協議会		出席
2	石関 清美	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
3	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
4	小野澤 和美	公益社団法人神奈川県社会福祉士会		出席
5	小野 敏明	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 田園調布学園大学名誉教授	会長	出席
6	小林 充明	相模原市自治会連合会	副会長	出席
7	渋谷 健太郎	公益社団法人成年後見リーガル・サポート 神奈川県支部		出席
8	清水 洋子	相模原市保護司会協議会		出席
9	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会		出席
10	中谷 正代	相模原市障害福祉事業所協会		出席
11	原 裕子	公募市民		出席
12	松谷 まゆみ	公募市民		出席
13	宮城 千佳子	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
14	安永 佳代	神奈川県弁護士会		出席
15	吉岡 輝明	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席